

# 校報「にはやし」



能代市立朴瀬小学校

学校教育目標  
「夢をいただき、強くたくましく生きる子どもの育成」

平成30年5月29日 No.10

## 朴瀬農園「大きく一步前へ」

5月28日(月)、朴瀬小学校ならではの大きな学習活動「農園体験学習」が行われました。農園体験学習は、現代の子どもたちがゲームやパソコンなどといったバーチャルな世界で暮らしてしまいがちな中で、生きる「実感」を伴う貴重な学習です。季節を感じ、気温や湿度を感じ、土の感触を味わい、植物の成長を観察することで、子どもたちは自然から多くのことを学んでいきます。

そうした貴重な学習を朴瀬小学校では学校の前の広大な畑で行うことができます。とても恵まれた環境にある学校ですが、さらに素晴らしいことに「人」にも恵まれております。子どもたちの身の周りに農業について指導して下さる多くの方々があります。

今年も地域の皆さんが13名も来校され、「ゲストティーチャー」として子どもたちを指導していただきました。本当に有り難く思っております。

最初に4年生以上の子どもたちが、マルチがけを行いました。鍬で、マルチをはる溝を起こしました。

地域の皆さんは、子どもたちにやり方を見せ、そして子どもたちに鍬を渡し、作業をさせていただきました。

子どもたちは自分たちの畑を自分たちでつくるという気持ちで一生懸命取り組みました。最初はぎこちない作業だった子どもたちですが、地域の皆さんから、「〇〇ちゃん、上手だね。その調子だよ。」「〇〇さん、うまくなってきたね。」と励ましの言葉をいただき、作業を進める度に鍬の使い方が上手になってきました。

次はマルチがけです。長い距離があったのですが、4年生から6年生までそれぞれが自分の持ち場で力を発揮し、疲れたら交代し、声を掛け合って作業を進めていました。

地域の皆さんは子どもたちに作業を任せながら、所要所で、「ちょっと待って。少し曲がったよ。そうそう、それでよくなったね。」と声を掛けてくださったり、子どもたちの作業をさりげなくフォローしてくださったりしました。



【鍬の使い方が上手になりました】

おかげで気付いたら、まっすぐで美しい二本の畑ができあがってきました。

地域の皆さんの中から、「今年は子どもたちが特に頑張った。」「子どもたちは教えることができるようになるから素晴らしい」という声が聞かれました。

私も昨年度より、子どもたちの作業量が増えていたと思います。この点からもこの農園体験活動が大きく一步前に進んだと思えました。



【4年・5年・6年の力を合わせて、マルチ掛け、大成功！】

植える下準備ができたところで、1年生から3年生が畑に登場です。最初は縦割りグループに分かれて、サツマイモを植えます。地域の皆さんのご指導を受け、上学年がリードしながら作業を行いました。



【縦割りグループで協力してサツマイモを植えました。みんな上達しています。】

全校でのサツマイモ植えが終わったら、今度は各学年の栽培する苗を植える作業に移りました。今年度は、それぞれの学年が農園活動を通して、追究したい課題を設定しています。そのために、条件を変えて植える場所を設けて植えたり、エダマメやトマト等で別の種類の苗を準備したり、似たような植物（キュウリ、ゴーヤ、ヘチマ）を植えたりしました。地域の皆さんのご指導のもと、順調に作業が進みました。

子どもたちの作業する傍らで地域の方が、「おいしいスイカができますように」とか「たくさんエダマメがとれますように」と言いながら、見守ってくれたのが印象的でした。こうした心をこめて育てる姿勢も子どもたちは学んだものと思います。

また、今年度はカボチャやスイカを植えたら、すぐに地域の方が苗を囲むビニールを準備してくださいましたし、キュウリなどの支柱も立ててくださいました。



【自分たちの学年で学習する苗を植えます。苗にあった環境をつくりました】

2時間以上の作業時間が終わったら、素晴らしい農園が完成していました。地域の方からも「今年の農園は去年よりずっといいですね。」「子どもたちの力でぐんぐんよくなりましたね。」という感想をいただきました。

私もそう思いました。地域の皆さん、子どもたちの「チーム朴瀬」の力で、「さらに一歩前の農園」ができました。誠にありがとうございました。

